

新型コロナウイルスの影響で学校が休校となり、行き場を失った学校給食用の生乳をどう振り分けるかが課題になっている。生乳メーカーなど関係各所は一般飲用向けに回したり、加工工場の稼働を増やしたりするなど対応を急いでいる。

全国の学校給食向け牛乳の量は1日約1,900トン。このうち北海道内の小中学校は1日約80トンで、主にホクレンが集荷した分が供給されている。3週間休みになった場合、1,200トン分の牛乳が余剰になる。

ホクレンでは、学校給食向けの生乳を一般飲用向けなどに回して対応。休校の対応期間によっては需要減少の長期化が懸念され、「どれだけ長くなるか分からないが、市販飲用向け、加工向けに少しでも回して、余剰にならないようにしたい」とする。

よつ葉乳業（札幌）では、先週末から加工工場の稼働

時間を延長するなど処理体制を強化。同社は「処理が可能な限り努力し、非常事態を乗り切りたい」とする。

道内からは都府県へ飲用向けの生乳も移出されているが、小中学校・高校の休校は全国的な事態。業界内では「生乳移出が減って道内で処理しなくてはならなくなった場合、対応できるのか」との懸念も広がる。

広尾町の酪農家は「生乳が足りず規模拡大を進めている流れの中、消費が落ち込んでしまうと厳しい」と話した。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、和牛の枝肉価格が下落している。訪日外国人旅行者（インバウンド）が減る中、外食産業での需要が減っているため、十勝の関係者は今後の価格動向を注視している。

ホクレン十勝枝肉市場で取引された黒毛和種の枝肉平均単価は、3月7日開催分（A5、去勢）で1キロ当たり2,342円。2月分の1キロ単価は2,548円で、8.1%減少した。12月のクリスマスやお歳暮シーズンをピークに価格は例年落ち着いてくるものの、歓送迎会や卒業などのイベントで一定の消費需要も見込める時期で、昨年3月は同2,635円だった。

ホクレン広報総合課によると、価格下落は新型コロナウイルスの感染拡大により中国人など外国人旅行者が減り、外食産業の落ち込みが見られるため。

十勝枝肉市場で取引された和牛は、道外の外食レストランや焼き肉店でも多く使用されるが、需要の減少に伴い単価が下がっている。ある関係者は「買って卸す先が営業していなくては、当然価格にも反映されてしまう」と悩む。

和牛の需要減退に伴い、黒毛和種の素（もと）牛（子牛）の価格も下落傾向。ホクレン十勝地区家畜市場の3月中旬の取引では、黒毛和種（去勢）の平均が前年比18.5%減の68万1,004円となった。

自宅で食事する需要が高まっていることから、スーパ

ーで売られるホルスタインや交雑種、豚肉の需要は底堅いものの、高価な和牛については「インバウンドが戻らないと需要自体も戻らないのではないかと懸念する声は多い。需要減が長引くと、経営に与える影響も心配される。

十勝酪農畜産対策協議会の坂井正喜会長は「東京五輪開催時の外食需要にも期待していただけに消費の陰りが心配。乳製品を含む積極的な消費が進めば」とする。

